

次年度に向けて 稲作総合検討会を開催



ものの比較的天気に恵まれ、1等米比率が93・4%と高品位が保たれています。出穂期の日照が大切であると改めて確認された。」と報告しました。

その後、JA営農企画課の細川係長が、「管内における水稲展示圃・試験圃について」の技術研修会を行い、従来品種に加え、新品種の「つぶぞろい」「秋のきらめき」などの展示圃や肥料・農薬の試験圃の生育経過などについて紹介しました。その中で、「ケイ酸入り基肥重点型588」と「セラコートR入り複合299」を使った展示圃では、①活力のある根が張った②倒伏に強い稲体ができ③整粒歩合も高いという結果となり、今後普及させていきたい肥料として報告しました。

次年度に向けて今後も稲作部会では、稲作技術の高位平準化を図り、品質の維持安定を目指すために講習会などを行っていく予定です。

JAあきた白神稲作部会（大塚忠之部会長）は26年産米の作柄を振り返り、次年度の品質向上につなげようと、能代山本広域交流センターで稲作総合検討会を開き、同部会員や肥料・農薬メーカーあわせて約40名が参加しました。

山本地域振興局農業振興普及課の中村智幸主査が、今年度の水稲生育経過と作柄概況について「今年度は8月の長雨があった

生産履歴記帳運動

【生産履歴記帳運動の目的】

1. 農薬安全使用基準に基づく農薬の使用など、適切な生産を行うことにより、農畜産物の安全を確保する。
2. 消費者や取引先に、農畜産物が適切な生産方法で生産されたことを伝えることで安心を届ける。

- ◆ 米の来歴カード、野菜の青果物生産履歴用紙は、年度ごと、品目ごとに提出が必要です。提出が無い場合、荷受けできなくなる可能性がありますので、来年度も必ずご記入の上、提出くださるようお願い致します。
- ◆ 生産履歴用紙の書き方がわからない、生産履歴用紙が無い場合は、営農指導員又は各営農センターに相談して下さい。

※JAあきた白神では、安全・安心な農産物を消費者に届けるため、お米の栽培来歴カードと野菜の生産履歴カードを**100%回収**しています。

～安全安心な農産物づくり推進協議会～

農業機械パワーアップ運動成果発表大会で優秀賞を受賞



▲優秀賞を受賞した斎藤隆将さん(右)

農家訪問活動を積極的に展開し、農家組合員との絆を深め、JA農機担当者の年間の活動成果を表彰する、秋田県JA農業機械パワーアップ運動成果発表大会が、1月24日に秋田市で開催されました。約270名が参加したこの大会では、1年間の活動で優れた成績をあげた担当者33名と7JAが表彰され、当JAからは製品制約受注部門で斎藤隆将さん（能代農機センター）が40歳未満の部で見事優秀賞に輝きました。